



仲村ひであき 県議会ニュース

vol.5 2019年冬【発行】千葉県議会議員 仲村秀明

仲村ひであきが令和元年9月定例会の質問に立ちました。

(公明党千葉県議会議員団)

9月9日早朝に本県を直撃した台風15号は県内10地点で観測史上1位の最大風速を記録するなど、暴風雨により県内の広範囲で甚大な被害をもたらしました。台風及び豪雨による被災者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

県議会では9月20日に会議を開催し、質問日を1週間延期するなど日程を変更し、台風による被害対応、被災地支援に努めました。

今議会では令和元年度一般会計補正予算等の議案14件が原案の通り可決されました。

今議会での仲村ひであきの質問をダイジェストで紹介します。

(詳しくは千葉県議会ホームページで録画をご覧ください)



県、液体ミルクの備蓄へ!

災害備蓄物資として乳児用液体ミルクを加える方針が明らかに!

液体ミルクは停電や断水でお湯を沸かせなかったり、水がなくても簡単に授乳でき、災害時に赤ちゃんの命をつなぐ貴重な栄養源となります。台風15号でも、液体ミルクを県内で先進的に備蓄品として取り入れた山武市では大いに活用されました。

こうした事を踏まえて、県に対し液体ミルクの活用について問うたところ、防災危機管理部長からは「今後は市町村に、液体ミルクの災害時における有用性の周知と備蓄を働きかけるとともに、新たに県の備蓄物資に加え、迅速で確実な供給に取り組む」との答弁がありました。

千葉県における災害備蓄物資の充実を一步前進させることが出来ました。



水道事業体の停電対応力強化へ!

水道施設における自家発電普及率の低さが課題

台風15号の影響で、県内最大約13万3千戸が断水し、大きな被害をもたらしました。停電により浄水場やその先のポンプへの電力供給ができなかったこと、また電力使用水道施設の非常用電源設備普及率が38%に留まっていたことが被害の拡大につながりました。水道事業体の話では、非常用発電設備の必要性は認識していたものの、多額の費用が掛かることから整備が進んでいないとの事でした。そこで、水道事業体の停電対策について県の取り組みを問いました。森田知事からは「有効な対策の検討を行い、停電への対応力強化に取り組む」との答弁がありました。県から国への財政支援の拡充を求めることを要望し、本県水道事業における災害対策の強化を求めました。



信号機の非常用電源化を加速 整備早期化と設置計画の再検討を!

台風15号による停電地域では、ほとんどの信号が消え警察官による交通整理も追いつかない中、非常に危険な状況でした。本年2月の私の代表質問でも、停電時に非常用電源で点灯する信号機電源付加装置(当時の整備率は約72%)の設置推進を訴えましたが、あらためて整備規模の拡大と共に、重要と認められる交差点について一刻も早く100%整備すべきと強く訴えました。県警本部長からは「警察庁と調整しながら、残る箇所における同装置の早期整備を図るとともに、整備計画の見直しの必要性についても検討する」との答弁がありました。



ひさいしゃ せいかつさいげん そろぎゅう

被災者の生活再建を早急に! 罹災証明書発行業務が滞ることの無いよう体制の強化を!

罹災証明書は被災した家屋や建物などの被害の程度を証明する書類で、市町村が現地調査をして発行します。同証明書は、今後の被災者支援の資金供給や、融資、税金や保険料の減免等の申請に必要となる為に、発行がスムーズに行われる事が望めます。

しかし、台風15号のような大規模災害では、市町村のマンパワーでは対応しきれない懸念があるため、罹災証明を滞りなく発行できるよう県の支援を求めました。

森田知事からは「県は9月30日までに、計16市町に延べ901人を派遣している。引き続き市町村の事務の進捗状況を把握し、関係機関と連携して支援する」との答弁がありました。一日も早く被災者が生活再建できるよう、県による最大限の協力を求めました。



はさまがわ こううたいさく すいしん

飯山満川における豪雨対策を推進 調節池、令和3年度中の完成を目指す

船橋市内を流れる飯山満川は、現在県と船橋市により河川改修が行われ、調節池の整備は県事業として進められています。台風15号では溢水を免れましたが、流域住民の不安は更に高まっている為、工事の早期完成を求め整備状況を確認しました。

県土整備部長からは「令和3年度中の調節池の完成を目指し、事業を進める」また、「飯山満川では、治水上支障がある堆積土砂の撤去や除草を行うことにより、適切に維持管理を行う」との答弁がありました。私からは飯山満川の下流に位置する海老川についても、船橋市と協力して調節池を早期完成するよう要望しました。



しゅうしょくひょう が き せ だい し えん じゅうじつ

就職氷河期世代の支援を充実 地域若者サポートステーションの対象年齢を40代まで拡大

厚労省は就職氷河期世代が安定した仕事に就くための支援策「就職氷河期世代活躍支援プラン」を公表。政府は正規雇用者について、この3年間で30万人増やすことを目指すとしています。千葉県は「ちば地域若者サポートステーション」が設置されており、今回の支援プログラムで更なる取り組みが求められることから、県にその内容を確認しました。

商工労働部長からは「本年8月、国は地域若者サポートステーションの対象年齢を30歳代から40歳代に拡大することなどを明らかにした。県としても国の事業展開を踏まえ、支援の充実を図る」との答弁があり、県の就職氷河期世代に対する支援拡充が示されました。



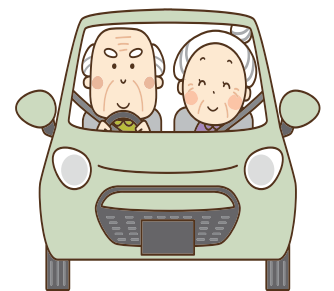
こうれい めんきょ こうしん げんさおよ こうしゅう こんざつかだい かいしゅう

高齢ドライバーの免許更新、検査及び講習の混雑課題の解消へ

千葉県の「待ち日数」、全国平均約75日より長い約95日

現在、免許更新の際に75歳以上の運転者は認知機能検査と高齢者講習が義務づけられ、検査の結果に応じて異なる講習内容を受講することになっています。大変混雑しており、検査及び講習の待ち日数の増加が課題となっています。今後も更なる高齢ドライバーの増加が見込まれる中で、課題解消への県の取り組みについて問いました。

警察本部長からは「本年8月から運転免許の有効期限が迫っている高齢者の方に限り、規定人数を超えて受検・受講できることとする運用を開始した。」との答弁があり、今後一層の改善に努め、円滑な実施に取り組む事を示しました。



なかむら ひであき

プロフィール

仲村 秀明

昭和44年7月2日生まれ 千葉県出身

千葉県議会議員(船橋市選出、2期)。公明党千葉県議会議員団所属。議会運営委員、総務防災常任委員。船橋市芝山在住。仲村ひであきの議会活動は、ブログ、フェイスブックでも発信しています

県政についてのご意見を
お寄せ下さい

【FAX】 047-409-0265
【メールアドレス】 info@nakamura.chiba.jp
【HP】 http://nakamura.chiba.jp